

* 令和4年度「学びの变革」学習指導案 *

- 「言葉」を持つ鳥, シジュウガラ (国語科)
～文章に説得力を持たせるために筆者はどのような工夫をしているだろうか～ P. 2—P. 8
- 「Unit6」 A Speech about My Brother (英語科)
～言語や文化の異なる他者と, 外国語でよりコミュニケーションを図るにはどのようなことが大切か～ P. 9—P. 16
- 中世の日本～室町時代を誰が滅ぼしたのか～ (社会科)
P. 17—P. 22
- 「平行と合同」説明の仕組み
～相手に説明するにはどうすればつたわりやすいか～ (数学科) P. 23—P. 28
- 「器械運動」マット運動
～日比中オリンピック体操競技の部～パワー・美しさを全身で表現!～ (体育科) P. 29—P. 35
- 故郷 ～45分でわかる 魯迅の「故郷」～ (国語科) P. 36—P. 40
- 「運動とエネルギー」仕事とエネルギー
～はやぶさ2のターゲットマーカーが弾まないのは何故か～ (理科) P. 41—P. 47
- 音楽コンクール・赤船祭にむけて
～クラス一体となるパワーワード～ (学活) P. 48—P. 52

『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ

～文章に説得力を持たせるために筆者はどのような工夫をしているだろうか～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 根拠を明確にして意見を伝える力 (学校) 主体性, コミュニケーション能力

- 1 日時 令和4年10月5日(水) 12:55～13:45
- 2 学年 第1学年2組 (男子19名 女子18名 合計37名)
- 3 場所 新館1F 1年2組教室
- 4 単元について

○ 教材観

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年)の第1学年「C.読むこと」の指導事項「エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。」を受けて、筆者の考えの進め方や文章の構成、展開を把握し、その意味づけをすることで、根拠を明確にして、文章の構成や展開によってどのような効果があるか考えることをねらいとして設定する。

本単元では、前提となる知識、研究のきっかけや仮説、検証、結果という文章の構成になっている。筆者の考えの進め方と同じように構成されているため、読者も筆者と同じ考えの道筋をたどって読むことができ、なぜ筆者の仮説が証明されたのかわかる論の展開である。本文を読み、筆者は説得力のある文章にするために、文章の構成や展開についてどのような工夫をしているか考えさせる。また、次の単元である『根拠を示して説明しよう』と結びつけ、本単元で生かしたことをもとに、資料を引用しながら自分の考えを相手に伝える発表原稿を書くことを初めに伝え、見通しを持って学習に取り組ませる。

○ 生徒観

本学級の生徒は、アンケートで次のように答えている。

	肯定的回答
話すとき、書くときに、文章の構成を考えることができる。	65.1%
文章の構成や論理の展開の効果について意識しながら読むことができる。	63.6%
友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり広げたりできる。	81.2%

授業では、自分の考えが相手に伝わるように意識しながら話をしたり、文章を書いたりする活動に積極的に取り組んでいる。だが、以上の結果から、文章の構成を考えながら自分の考えを相手に伝えることは難しいと感じている生徒が多いことがわかる。また、説明文を読むときに、筆者の意見や主張を読みとることはできているが、文章の構成や論理の展開について意識しながら読むことに対して苦手意識を持っている生徒もいる。

生徒たちは、発問に対して自分の考えを持ち、話し合い活動で積極的に意見を交流している。出てきた意見について、意見を付け加えることや質問をすることなどにより、さらに考えを深めている様子である。また、個人で考えることが難しい生徒も、話し合い活動で他者の意見を知ることによって自分の考えに気づいたり、新しい意見を出したりするなど、思考を深めることができている。

○ 指導観

指導に当たっては、文章を読むときに文章の構成や論理の展開とその効果を意識させることを目的とし、筆者の考えの進め方により、読者にどのような印象を与えるか考えさせる。

読者が納得するような説得力のある文章にするために、筆者がどのような工夫しているかを考え、構成や展開によって読者に与える印象が異なることに気づかせたい。また、次の単元に結びつけて、本単元で学習した内容を生かして、今後、自分の考えを相手に伝えるときにどのような文章の構成、論理の展開にするのか意識して考えられるよう指導したい。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

	資質・能力	意欲・態度	知識・スキル		
		主体性 (自己を認識する力、 自分の人生を選択する力)	コミュニケーション能力 (表現する力)		
授業の展開の場面で(ミニホワイトボード等を使用して)	レベル1	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。
	レベル2	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために、質問ができる。
	レベル3	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。
	レベル4	やりたいことを自ら見つけ、分析し、(大人の力も借りながら)自分たちで実行できる。	少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。		

6 単元目標

○原因と結果，意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。【知技 (2)ア】

○文章の構成や展開，表現の効果について，根拠を明確にして考えることができる。

【思判表 C読む(1)エ】

○言葉がもつ価値に気づくと共に，進んで読書をし，我が国の言語文化を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする。【態度】

7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
意見と根拠など情報と情報との関係について理解しようとしている。	「読むこと」において，文章の構成や展開，表現の効果について，根拠を明確にして考えている。	積極的に文章の構成や展開，表現の効果について考え，学習の見通しをもって，文章に説得力を持たせるために筆者がどのような工夫をしているか考えようとしている。

8 指導計画 (全4時間)

教科・領域の本質的な問い

・自分の考えを相手に伝えるときに大切なことは何だろうか。

過程	時間	学習内容	重点	記録	評価規準	資質・能力 (評価方法)
課題の設定	1	本文を通読し，役割によって五つの部分に分ける。	思		本文を役割によって五つに分け，なぜそのように分けるのかを考えている。	【コミュニケーション力】 (話し合い)
単元を貫く問い (探究課題の萌芽)						
説得力のある文章とは，どのようなものだろうか。						
整理・分析	2	「仮説の検証 1」と「仮説の検証 2」について，五つの観点で内容をスライドにまとめる。【本時】	知		意見と根拠がどのようにつながっているかを理解している。	【主体性】(Google スライド) 【コミュニケーション力】 (話し合い)
表現	3	前回まとめたスライドを用いて，文章に説得力を持たせるために筆者がしていた工夫について考え，発表する。	思	○	文章の構成や展開を意識して，五つの観点で内容を読み取り，スライドにまとめて発表している。	【主体性】(発表)

振り 返り	4	筆者がどのように文章の構成や展開，表現を工夫したのか考え，説得力のある文章がどのようなものか話合う。	態	○	筆者が文章に説得力を持たせるために，どのように文章の構成や展開，表現を工夫したのか考えようとしている。	【根拠を明確にして意見を伝える力】(ワークシート)
----------	---	--	---	---	---	---------------------------

単元を貫く問いの終結

説得力のある文章とは，自分の意見とその根拠が明確であり，「検証の目的」「検証の方法」「結果」「考察」「その結果出てきた問題点」のように，筆者の考えの進め方と同じように論理を展開している文章である。読者は筆者と同じような道筋で考えられ，なぜ筆者の意見が成り立つのか理解して読むことができる。

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○論理の展開に着目して，筆者が文章に説得力を持たせるためにどのような工夫をしているか考えられる。


(2) 本時の評価規準




- ・自分の考えを支える根拠となる部分を挙げながら，筆者がなぜこのような構成や展開，表現にしたのか考えている。(思・判・表)
- ・文章に説得力を持たせるために，筆者がどのように文章の構成や展開，表現を工夫したのか考えようとしている。(態度)

(3) 準備物

- ・chromebook

(4) 学習の流れ (2時間目/全4時間)

過程	学習活動	指導上の留意事項 (○) 予想される生徒の反応 (・) 支援を要する生徒への手立て (◆)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
1 課題の把握 [5分]			
導入	・前時に学んだ文章全体の構成や展開を振り返る。	○本文を五つに分けたとき，どのような役割で分けたかを確認させる。 ・本文は，シジュウカラについての前提となる知識，筆者の研究のきっかけや仮説，仮説の検証，結果(筆者の意見)の五つで分けられた。 ◆ペアで確認させた後，全体で共有する。	

	<p>・本時の学習課題を発表する。</p>	<p>○前時で分けた五つの部分のうち、「仮説の検証1」「仮説の検証2」の論理の展開に着目することを伝える。</p>	
<p>学習課題 仮説の検証1・2をスライドにまとめて、説得力のある文章にするために筆者がどのような工夫をしているのか考えよう。</p>			
<p>ねらい どのような文章の構成や展開、表現をすると、説得力のある文章になるか考える。</p>			
<p>2 情報の分析 [20分]</p>			
<p>展開 前半</p>	<p>・「仮説の検証1」「仮説の検証2」の内容をスライドにまとめる。</p>	<p>○仮説の検証1・2について、「検証の目的」「方法」「結果」「考察」「問題点(1のみ)」の五つの観点に着目してまとめさせる。 ◆五つの観点について、該当箇所を本文から探し、線をひかせる。 ◆事前に用意したスライドの型をつかってまとめさせる。</p>	<p>・筆者の意見とその根拠の関係を理解できている。 〔知・技〕 ★コミュニケーション力（話し合い）</p> <p style="text-align: right;"></p>
<p>3 情報の整理 [15分]</p>			
<p>展開 後半</p>	<p>・説得力のある文章にするため、筆者がどのような工夫をしているのか考える。</p>	<p>○少人数班で意見を交流し、考察した内容をスライドの最後のページにまとめさせる。 ○文章の構成・展開に着目して考えさせ、その効果について考察させる。 ◆スライドの順序を本文の構成とは異なる順序に入れ替えさせ、どのように感じるか考えさせる。 ・「考察」から始まると、その後から「検証の目的」や「検証の方法」について説明されても頭の中で結びつかない。 ・この文章は、筆者の考えの道筋と同じ順序で論理が展開しているから、読者は筆者と同じように考察しながら文章を読むことができる。 ◆筆者の意見と根拠の関係、表現の仕方、図表などの観点からも考えさせる。</p>	<p>・文章の構成や論理の展開、その効果を考えている。 〔思・判・表〕 ★主体性(Googleスライド)</p> <p style="text-align: right;"></p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・意見と根拠で文末が異なる。 ・図表があることで、文章の内容が視覚的に分かりやすい。 	
	<p>予測される生徒の考え</p> <p>A評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説，検証，結果から新たにわかった「問題点」についてさらに検証を重ねることで，検証の精度が増し，筆者の意見の説得力が増している。 ・自分の意見を伝えるときは，結論の後にその理由を述べると伝わりやすい。だが，実験のように仮説，検証を行う場合は，その結論に至るまでの順番通りに論理を展開すると，考えの道筋がわかりやすく，読者が納得できる文章になる。 <p>B評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「仮説の検証1」「仮説の検証2」は，筆者の考えの道筋がわかりやすい論理の展開になっていて，読者が理解しやすく，説得力がある。 ・根拠となる事実が図表や写真などでも示されていて，説得力がある。 		
4 次回予告，振り返り。[10分]			
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを書く。 	○今回の授業で学んだことを観点をもとに振り返らせる。	
<p>生徒の振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理の展開の仕方によって相手に与える印象が違うことがわかった。 ・今後，異なる構成の説明文も読んで，どのような論理の展開の仕方なのかを知り，その効果は今回学習したもの以外にもあるのかを知りたい。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の授業を次回の授業につなげる。 	○今回制作したスライドを次回他の班に発表することを伝える。	

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	説得力のある文章にするために，筆者がどのような工夫をしていたか考え，その工夫の効果や意味を考察することができる。
B（合格）	説得力のある文章にするために，筆者がどのような工夫をしていたか考えることができる。
C（乗り越えさせたい実態）	本文がどのような構成で書かれているか理解することができる。

(5) 板書計画

単元名

『言葉』をもつ鳥，シジュウカラ

学習課題

仮説の検証1・2をスライドに
まとめて，説得力のある文章にするために筆
者がどのような工夫をしているのか考えよ
う。

ねらい

どのような文章の構成や展開，表
現をすると，説得力のある文章になるか考え
る。

〈五つの観点〉

- ① 「検証の目的」
- ② 「検証の方法」
- ③ 「結果」
- ④ 「考察」
- ⑤ 「問題点(仮説の検証1のみ)」

「Unit6 A Speech about My Brother」

～言語や文化の異なる他者と、外国語でより良いコミュニケーションを図るにはどのようなことが大切か～

本単元で育成する資質・能力

(学校) 主体性, コミュニケーション能力

- 1 日時 令和4年10月5日(水) 12:55～13:45
- 2 学年 第1学年1組 (男子18名 女子19名 合計37名)
- 3 場所 新館1F 1年1組教室
- 4 単元について

○ 教材観

中学校学習指導要領解説 外国語編の「(4) 話すこと [発表]」の目標には「イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。」と示されている。これは、話し手として伝えたい順番や聞き手に分かりやすい展開や構成を考えて、それらをメモにするなどして整理し、英語で簡単なスピーチや発表ができることを目指すものである。

本単元は、朝美がスピーチでフィリピンのセブ島にいる兄について紹介し、そのスピーチを聞いた海斗が質問をして、フィリピンの食べ物についてやり取りをする、という場面が示されている。本文で朝美が行っているスピーチをモデルとしながら、スピーチの展開や構成の在り方、情報の整理の仕方について学ぶきっかけとなる教材である。言語材料としては三人称単数現在形の肯定文・否定文・疑問文を取り扱い、生徒自身が他者に伝えたい人やキャラクターについて紹介する言語活動を設定する上で最適な教材である。

○ 生徒観

本学級の生徒は、小学校の外国語授業においてスピーチを経験しており、第6学年時には「将来の夢」についてのスピーチコンテスト等も実施している。本学年の生徒に令和4年8月22日に実施した「話すこと(発表)」に関わるアンケートの結果から、次のような実態が明らかとなった。アンケートの項目は次の通りである。

項目	あてはまる	やや	あまり	あてはまらない
英語の勉強は好きです。	37.5%	36.1%	16.7%	9.7%
英語の授業はよく分かります。	51.4%	36.1%	9.7%	2.8%
英語でスピーチやプレゼンテーションをすることが好きです。	9.7%	20.8%	38.9%	30.6%

3つ目の項目について否定的な回答をした生徒の記述には、「人前で話すのが苦手だから。」「英語で話すときに間違えているかもしれなくて怖いから。」「どうやったらうまく伝えられるか分からないから。」といった理由が見られた。このことから、英語を用いて自分の考えや気持ちを伝える表現の定着が不十分であることや、相手に分かりやすく伝えるための展開や構成についての知識が乏しいことが考えられる。

一方で英語を用いてどんなことができるようになりたいかを問う項目については「外国の人と会話ができるようになりたい。」「自分の伝えたいことを英語でスラスラ言えるようになりたい。」など、英語を用いて話すことについての力量を高めたいという思いが圧倒的に多かった。現時点では英語を用いて話すことに自信が持てていないが、英語を自在に操れるようになりたいという思いは高いこと

が分かった。

○ 指導観

指導には、単元のゴールとして、ALT に知ってもらいたい人やキャラクターについて紹介するスピーチを設定している。小学校で行ったスピーチの経験をいかしつつ、小学校の目標には無い「まとまりのある内容を話すことができるようにする」ということを目指して指導したい。そのために、伝えたい人やキャラクターについての情報を整理する手立てとしてマッピング等の思考ツールを活用し、聞き手により良く伝えるためのスピーチ展開や構成を考えさせる。さらに、後日行うパフォーマンステストに向け、「帯活動」で日常的な話題についての言語活動（Chat 等）に取り組みせ、相手の話の内容を踏まえた質問を投げかけてコミュニケーションを継続させようとする態度を養いたい。

また、本単元で学ぶ三人称単数現在形は小学校での取扱がなく、中学校で初めて触れる言語材料であり、英語の学習を進める上でのつまずきになりやすいものである。自分のことや相手のことについて伝える表現と比較し、一般動詞の形の違いに気付かせるとともに、動詞の活用については、くり返しドリル練習をすることを通して、表現の理解と定着を促したい。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力，コミュニケーション能力，主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

	資質・能力	意欲・態度	知識・スキル		
		主体性 (自己を認識する力, 自分の人生を選択する力)	コミュニケーション能力 (表現する力)		
授業の展開の場面で(ミニホワイトボード等を使用して)	レベル1	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。
	レベル2	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために、質問ができる。

	レベル3	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。
	レベル4	やりたいことを自ら見つけ、分析し、(大人の力も借りながら)自分たちで実行できる。	少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。		

6 単元目標

○三人称単数現在形を用いた文の形・意味・用法を理解する。

○ALT に伝えたい人やキャラクターなどについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、三人称単数現在形を用いて話す技能を身に付ける。

○ALT に興味を持ってもらえるように、伝えたい人やキャラクターについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話す。

○ALT や友達の立場に立って考え、聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。

7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・三人称単数現在形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・ALT に伝えたい人やキャラクターなどについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、三人称単数現在形を用いて話す技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT に興味を持ってもらえるように、伝えたい人やキャラクターについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT や相手の立場に立って考え、聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。

8 指導計画 (全 10 時間)

教科・領域の本質的な問い

・言語や文化の異なる他者と、外国語でより良いコミュニケーションを図るには、どのようなことが大切か。

過程	時間	学習内容	重点	記録	評価規準	資質・能力 (評価方法)
課題の設定	1	単元の目標を理解する。 「ALT に知ってもらいたい人やキャラクターについての紹介スピーチをしよう。」	態	○	ALT や相手の立場に立って考え、聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。	【主体性】 (ワークシート)

	★小学校で行ったスピーチの学習活動について振り返る。 ★伝えたい情報をメモする (マッピング)					
単元を貫く問い (探究課題の萌芽) ザック先生に知ってもらいたい人やキャラクターについて紹介しよう。						
情報収集	2	三人称単数現在形の肯定文の形・意味・用法を理解する。	知		三人称単数現在形を用いた文の形・意味・用法を理解している。	【コミュニケーション能力】 (活動の観察・ワークシート)
	3	教科書本文を通して、ALT に知ってもらいたい人やキャラクターが普段することについて伝える表現を知る。	知	○	ALT に伝えたい人やキャラクターなどについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、三人称単数現在形を用いて話す技能を身に付けている。	【主体性】 (活動の観察・スライド)
	4	三人称単数現在形の否定文の形・意味・用法を理解する。	知		三人称単数現在形を用いた文の形・意味・用法を理解している。	【コミュニケーション能力】 (活動の観察・ワークシート)
	5	教科書本文を通して、ALT に知ってもらいたい人やキャラクターが普段することやしないことについて伝える表現を知る。	知	○	ALT に伝えたい人やキャラクターなどについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、三人称単数現在形を用いて話す技能を身に付けている。	【主体性】 (活動の観察・スライド)
	6	三人称単数現在形の疑問文とその答え方を理解する。	知		三人称単数現在形を用いた文の形・意味・用法を理解している。	【コミュニケーション能力】 (活動の観察・ワークシート)
	7	教科書本文を通して、フィリピンの食べ物について知る。 対話の概要を捉え、その情報に追加してたずねたり答えたりすることができる。	知	○	ALT に伝えたい人やキャラクターなどについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、三人称単数現在形を用いて話す技能を身に付けている。	【主体性】 (活動の観察・スライド)
	8	友達のスピーチを聞くとき、さらに知りたいことについて質問する方法を知る。 Tool Box ★こんなこと質問したいな…リスト	知		ALT に伝えたい人やキャラクターなどについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、三人称単数現在形を用いて話す技能を身に付けている。	【コミュニケーション能力】 (活動の観察・ワークシート)

整理・分析	9	より良いスピーチの仕方について考え、まとまりのある内容になるように構成を考える。	態	○	ALT や相手の立場に立って考え、聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。	【主体性】 (ワークシート)
まとめ・創造・表現	10	ペアやグループで紹介したい人やキャラクターについてのスピーチを発表したり、質問をしたりする。【本時】 ★うまく言えなかった表現の確認 ★質問された内容についてさらに情報を加える ★より良く伝える工夫（レベルアップさせるには…）	思	○	ALT に興味を持ってもらえるように、伝えたい人やキャラクターについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。	【コミュニケーション能力】 (活動の観察・ワークシート)
実行・振り返り	後日	【パフォーマンステスト】 ALT に知ってもらいたい人やキャラクターについての紹介スピーチをする。	思	○	ALT に興味を持ってもらえるように、伝えたい人やキャラクターについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。	【コミュニケーション能力】 (パフォーマンステスト・振り返りシート)
単元を貫く問いの終結 外国語で身近な人やものなどについて事実や自分の考え、気持ちなどを聞き手に分かりやすく伝えるには、相手の興味関心や文化、立場について考えを巡らせたり、情報を整理して伝える順序を工夫したりすることが大切である。						

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○ペアやグループで ALT に知ってもらいたい人やキャラクターについての紹介スピーチをしたり、質問をし合ったりすることができる。

(2) 本時の評価規準

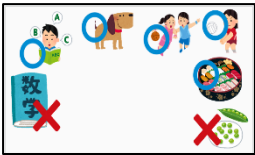
・ALT に興味を持ってもらえるように、伝えたい人やキャラクターについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。


【思考・判断・表現】

(3) 準備物

・電子黒板, Chrome book, ワークシート

(4) 学習の流れ (10 時間目 / 全 11 時間)

過程	学習活動	指導上の留意事項 (○) 予想される生徒の反応 (・) 支援を要する生徒への手立て (◆)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
1 課題の把握 [5分]			
導入	<p>○Chat (帯学習)</p> <p>・生徒の身近な人(芸能人や先生など)をテーマとして提示し, その人についてペアやグループで30秒から1分間やり取りをする。</p>  <p>めぐす生徒の姿</p> <p>A: This is our teacher, Ms. Matsubara. She teaches English. B: Yes, she likes English. But she doesn't like math. A: That's right. She doesn't like math! B: Does she like sports? A: Yes, she does. She likes basketball and volleyball. B: Oh, I see. What food does she like? A: She likes sushi. She loves "uni" sushi. B: Really? ...</p> <p>あいづち</p> <p>くり返し</p> <p>質問</p>	<p>◆よく使う表現や前時に学習した Tool Box の表現を視覚的に確認できるよう提示しておく。</p> <p>○本時の言語活動と関連させ</p>	<p>導入の工夫</p>
<p>Task</p> <p>ザック先生に知ってもらいたい人やキャラクターについて紹介しよう。</p> <p>単元を貫く問い</p>			
<p>Today's Goal</p> <p>ペアやグループで発表をしたり質問をし合ったりして, ザック先生へのスピーチをレベルアップさせよう!</p>			
2 課題の探究 [20分]			
展開 前半	<p>○ALT に知ってもらいたい人やキャラクターについてペアやグループで紹介し合う。</p> <p>①スライドを見せながら, ペア(グループ)で発表し合う。</p> <p>②スピーチを聞いていた人は, さらに知りたいことを発表者に質問する。</p> <p>③困り感の共有・改善に向けてのアイデアを交流。</p> <p>(例)・質問してみたいことはあったけど, どう言えば良いか分からなかった。</p> <p>・質問された内容が分からな</p>	<p>○聞き手に分かりやすく伝える工夫を意識させる。</p> <p>ICTの活用</p> <p>◆机間巡視をして, 困っている生徒の支援をする。</p> <p>◆発表・質疑が終わった段階で, 困り感を共有する。言いたかったのに表現方法が分からなかったことや, 聞いたかったのに質問の仕方が分からなかったことについて, 全体で共有し改善する時間を取る。</p>	<p>・ALTに興味を持ってもらえるように, 伝えたい人やキャラクターについて, 事実や自分の考え, 気持ちなどを整理し, 簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。[思考・判断・表現](活動の観察・ワークシート)</p>

	<p>かった。 ・質問への答え方が分からなくて困った。</p> <p>④パートナー（メンバー）を替えて発表し合う。 ⑤ ①～④を繰り返す。</p> 	<p>○改善点が反映されて、より良い発表になるように意識させる。</p>	<p>★コミュニケーション能力（活動の観察・ワークシート）</p>
3 課題の解決 [10分]			
展開後半	<p>○Level Up Time ・スピーチ内容の推敲。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(Level Up のポイント例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スライドの順序を調整 ● 新たな情報を加える (友達に質問された内容など) ● うまく言えなかった表現の確認・練習 </div>	<p>◆レベルアップさせるポイントを視覚的に示す。 (例)・質問された内容についてのスライドを加えよう。 ・伝わりやすい順序にスライドを並べ替えよう。</p>	
4 次の探究に向けて[15分]			
まとめ	<p>○何人かの生徒にスピーチを発表させる。</p> <p>○紹介された人・キャラクターについての理解を深めるために、教師が質問をして、発表者とやり取りをする。</p> <p>○振り返りを書く。</p>	<p>○発表者の良さを見つけ、自分のスピーチに生かすように促す。</p> <p>◆パフォーマンステストのイメージを具体的に思い描けるようなモデルを示す。</p>	
<p>予測される生徒の考え</p> <p>A評価 ○ザック先生が知らないかもしれないことについて、分かりやすく伝えられるように工夫していこうと思う。 ○スピーチでは自分だけが話すのではなく、Do you know～? などと相手に問いかけることもできたら良いと思う。</p> <p>B評価 ○相手にうまく伝わるように、話す内容の順序や展開を工夫したい。 ○アイコンタクトや姿勢、表情で伝わるものもあるから、相手の目を見て話したり、笑顔で発表したりできたら良いと思う。</p>			

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	<ul style="list-style-type: none"> ○ALT に知ってもらいたい人について、誤りのない正しい英文を用いてスピーチをすることができる。 ○相手の発表内容について、さらに詳しく知るための質問をしたり、自分の考えや感想を伝えたりすることができる。
B（合格）	<ul style="list-style-type: none"> ○ALT に知ってもらいたい人について、誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いてスピーチをすることができる。 ○相手の発表内容について、さらに詳しく知るための質問をすることができる。
C（乗り越えさせたい実態）	<ul style="list-style-type: none"> ○ALT に知ってもらいたい人について、スピーチをすることができない。 ○相手の発表内容について質問をすることができない。

「中世の日本」 ～室町時代を誰が滅ぼしたのか～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 課題発見解決力(学校) 主体性, コミュニケーション能力

- 1 日時 令和4年10月5日(水) 12:55～ 13:45
- 2 学年 第2学年1組 (男子18名 女子18名 合計36名)
- 3 場所 新館2F 2年1組教室
- 4 単元について

○ 教材観

本単元は、中学校学習指導要領 歴史的分野 B近世までの日本とアジア (2)中世の日本(ウ)「民衆の成長と新たな文化の形成」を受けて設定している。

本単元では、農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基にして、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することで、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解する構成となっている。

○ 生徒観

質問項目	肯定的な評価
○歴史を学ぶことは自分にとって大切である。	67.3%
○歴史の学習は得意である	48.2%
○室町時代について知っていること(小学校で学習する事項)・記述解答	
・室町幕府や金閣・銀閣などの建造物	48.2%
・書院造, 水墨画, 茶の湯などの現在につながる文化	24.1%
・その他, 無回答, 誤答	37.9%

アンケートの結果から、生徒の多くは歴史を学ぶことは大切であると感じている。一方で、「歴史の学習は得意である」という質問になると、半数以上が否定的な回答になることから歴史の学習に苦手意識があることがわかる。特に、「歴史の学習が得意である」という質問に対して否定的だった生徒の理由のほぼすべてが「覚えることが苦手だから」であった。生徒の中では、「歴史＝暗記しなければならない」であるため、この意識を変えなければ学習を意欲的に取り組むことは難しい。

○ 指導観

指導に当たっては、室町時代について既習事項を基に、金閣や銀閣などを上げさせたうえで、それら

が現在でも残り続けていることを意識させる。そのうえで、「室町時代は現代社会にどのような影響を与えているのだろうか」という単元を貫く問いを設定する。

展開部では、鎌倉時代同様に武士の権力は衰えることなく大きな力を持つようになっただけでなく、農民や商人も協力しあうことで、武士や領主に対抗できるほどに地位が向上し始めたことを、資料を基に考えられるようにする。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

	資質・能力	意欲・態度	知識・スキル		
		主体性 (自己を認識する力、 自分の人生を選択する力)	コミュニケーション能力 (表現する力)		
授業の展開の場面で(ミニホワイトボード等を使用して)	レベル1	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。
	レベル2	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために、質問ができる。
	レベル3	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。
	レベル4	やりたいことを自ら見つけ、分析し、(大人の力も借りながら)自分たちで実行できる。	少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。		

6 単元目標

- 中世の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史帰還する様々な情報を効果的に調べてまとめる技能を身に付けようとする。(知識・技能)
- 中世の日本にかかわる事象の意味や意義、伝統や文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したりする力を養う。(思考・判断・表現)
- 中世の日本にかかわる諸事項について、そこで見られる課題を主体的に探究、解決しようとする態度を養う。(主体的に取り組む態度)

7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。 農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。	武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	中世の日本について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追求しようとしている。

8 指導計画 (全7時間)

教科・領域の本質的な問い

- ・自分たちは歴史から何を受け継いでいるのだろうか。

過程	時間	学習内容	重点	記録	評価規準	資質・能力 (評価方法)
課題の設定	1	これまでの歴史のまとめ	主	○	これから学習する歴史を、既習事項と関連付けて主体的に学ぼうとしている。	【主体性】記述分析
単元を貫く問い (探究課題の萌芽) 室町時代は現代社会にどのような影響を与えているのだろうか						
情報収集	2	南北朝の動乱と室町幕府	知	○	南北朝の動乱の最中に室町幕府が成立したことを理解することができる。	

	3	東アジアの交流	知		日本と東アジアの国々との交流を理解することができる。	
	4	産業の発達と民衆の生活【本時】	思	○	なぜ、中世の時代で農民が強い力を持ち始めたかについて、資料を読み取りまとめ、説明できる。	課題発見解決学習【記述分析】
	5	応仁の乱と戦国大名	知		応仁の乱によって社会がどのように変化したかを理解することができる。	
	6	室町文化とその広がり	知		室町文化の特色について理解している。	
まとめ	7	まとめ	思	○	室町時代が自分たちにどのような影響を与えたのかを説明できる。	【主体性】記述分析

単元を貫く問いの終結

室町時代は、武士の影響力が拡大し、各地で支配を強めていった。民衆の生活では、貨幣の導入によって、流通が容易になり商業が発達したことで、貴族や武士以外にも裕福な人々が登場した。また共同で農作業を行うことで、農民達が団結して行動を行うようになり、自ら村を自治するようになった。

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- 複数の資料を読み取り、情報を選択しながらまとめる活動を通して、なぜ中世の時代で農民が強い力を持ち始めたかについて、説明することができる。

(2) 本時の評価規準

- ・ 情報を整理・分析する活動を通して、中世の農民が強い力を持ち始めた理由を考え説明することができる。【課題発見解決学習】(記述分析)

(3) 準備物

- ・ クロームブック、ワークシート

(4) 学習の流れ (4時間目/全7時間)

過程	学習活動	指導上の留意事項 (○) 予想される生徒の反応 (・) 支援を要する生徒への手立て (◆)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
1 課題の把握 [5分]			
導入	<p>・資料(一揆の現代語訳)の読み取りを行う。</p> <p>学習課題 なぜ、中世の時代で農民が強い力を持ち始めたのだろうか。</p>	<p>○「大乘院日記目録」を提示し、農民が蜂起した文章を読み取らせることで、農民の力が室町時代ころから強まっていったことを理解させるとともに、本時の学習の見通しを持たせる。</p>	
2 課題の探究 [10分]			
展開 前半	<p>・資料(鎌倉時代と室町時代の田植えの様子)の読み取りを行う</p>	<p>○「大山寺縁起絵巻」と「月次風俗図屏風」を提示し、気づいたこと・読み取ったことをワークシートへ記入する。</p> <p>◆資料の読み取りを自由に行わせることで、多くの視点からの意見を収集できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・踊っている人がいる ・女性が田植えをしている ・稲をわたしている人がいる ・牛を使って農地を耕している ・たくさんの人数で田植えを行っている 	
3 課題の解決 [20分]			
展開 後半	<p>・読み取った内容と新たな資料(「御成敗式目」の現代語訳・水車の絵)を基に、農民の力が強まったものを選び、その理由を考える。 (個人思考→グループ)</p>	<p>○グループになって、農民の力が向上した理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力して農作業を行ったり、牛を使って耕したりすることで、収穫量を上げた。 ・稲作が終わった田に麦を植える二毛作を行うことで、収穫量を上げた。 ・水車を利用することで、多くの田や畑に水を供給することが可能になった。 ・協力して農作業を行ったり、新たな技術を用いたりすることで、年貢以上の収穫量を得ることができるようになった。 	<p>課題発見解決学習 【記述分析】</p>

	<p>・米と貨幣の関係について考える。(グループ)</p> <p>・村の自治について理解を深める。</p>	<p>○いくら収穫量が上がっても、米を持っているだけではあまり意味がないことを意識させ、農民の力を強めた要因の一つを、教科書の資料の中から考えさせる。</p> <p>・宋から輸入された宋銭と米を交換することで、お金を貯金できるようになり農民の力が強まっていった。</p> <p>○貨幣を使ったやり取りを取り上げることで、現代社会との共通点を見いだせるようにする。</p> <p>○農民の力が強まった結果、自分たちで協力して運営する惣が現れ、おきてを作ったり、年貢の軽減を求め団結して一揆をおこしたりしたことを理解させる。</p>	
4 次の探究に向けて。 [10分]			
ま と め	<p>・振り返りを行う</p>		
<p>生徒の振り返りの例</p> <p>A評価</p> <p>農作業を協力して行ったり、新たな技術を採用したりすることで、米などの収穫量が増えていった。また、この時代に流通した宋銭と米を交換することで、農民の中で富を蓄えることができるようになった。その結果、農民たちの地位が向上し、団結して権力者に交渉を行うようになった。</p> <p>B評価</p> <p>農作業の発展や、お金を使ったやり取りを行ったり、自分たちで自治を行う惣を作ったりすることで、農民の力が強まった。</p>			

(5) 板書計画

単元名	中世の日本													
学習課題	資料を読みとる活動を通して、なぜ中世の時代で農民が強い力を持ち始めたかについて、説明することができる。	なぜ、中世になって農民の力は強まったのだろうか												
	資料からわかること													
	<ul style="list-style-type: none"> ・踊っている人がいる ・女性が田植えをしている ・稲をわたしている人がいる ・牛を使って農地を耕している ・たくさん的人数で田植えを行っている 	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; text-align: center;"> <tr> <td>WB</td><td>WB</td><td>WB</td><td>WB</td> </tr> <tr> <td>WB</td><td>WB</td><td>WB</td><td>WB</td> </tr> <tr> <td>WB</td><td colspan="3">惣・・・自分たちで自治を行う組織 →村の中でおきてをつくる</td> </tr> </table>	WB	WB	WB	WB	WB	WB	WB	WB	WB	惣・・・自分たちで自治を行う組織 →村の中でおきてをつくる		
WB	WB	WB	WB											
WB	WB	WB	WB											
WB	惣・・・自分たちで自治を行う組織 →村の中でおきてをつくる													

「 平行と合同 」 説明の仕組み ～ 相手に説明するにはどうすれば伝わりやすいか ～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 課題発見解決力 (学校) 主体性, コミュニケーション能力

- 1 日 時 令和4年10月5日(水) 12:55～13:45
- 2 学 年 第2学年2組 (男子18名 女子17名 合計35名)
- 3 場 所 新館3F 2年2組教室
- 4 単元について

○ 教材観

本単元は、第1学年で、図形の作図や移動を取り扱っている。また、空間における直線や面の位置関係を知り、空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されているものと捉えたり、平面上に表現したり読み取ったりしている。これらの学習を通して、図形についての豊かな感覚を育み、図形についての理解を深めるとともに、論理的に考察し表現する力を養ってきている。第2学年では、三角形や四角形などの多角形の角の大きさについての性質を、数学的な推論を用いて調べることができるようにする。その際、図形をよく観察したり、作図したりする操作や実験などの活動を通して、その推論の過程を他者に伝わるように分かりやすく表現できるようにする。

○ 生徒観

本学級の生徒は、自分の意見や考えを持っているにも関わらず、発表を積極的に行えない生徒が多い。しかし、班活動の話合いなどでは自分の意見を周りの生徒に交流して意見交換をすることが定着できている。事前アンケートを以下の表にまとめました。

アンケート内容	肯定的解答	否定的解答
B「図形」分野の学習は理解できますか	70%	30%
授業中に個人で考えを持つことができているか	96%	4%
自分の考えを発表・説明することができますか	64%	36%
話合い学習で自分の考えが深まりますか	85%	15%
話合い学習で自分の意見を伝えることができますか	76%	24%

アンケート結果から、「図形」分野が得意と答えている生徒の割合が高い。個人や話合い学習の中で意見交換することができている。しかし、数学全般の分野に対して発表したり、言葉で説明したりする生徒が苦手であることが分かった。

○ 指導観

指導に当たっては、生徒観でのアンケート結果から考えていく。「図形」分野が得意と答えている生徒の割合が高い。そして、個人や班で考えることができているが、発表や説明することが苦手である。しかし、「平行と合同」では、三角形の合同条件をもとに相手に伝わるように証明していくので、図形を言葉で説明することに慣れてもらいたい。そのために導入の部分から、定理の説明まで言葉で伝えることを多く取り入れていき、ペアワークや班活動、クラス内への発表を積極的に取り入れていきたい。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

	資質・能力	意欲・態度	知識・スキル		
		主体性 (自己を認識する力, 自分の人生を選択する力)	コミュニケーション能力 (表現する力)		
授業の展開の場面で(ミニホワイトボード等を使用して)	レベル1	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。
	レベル2	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために、質問ができる。
	レベル3	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。
	レベル4	やりたいことを自ら見つけ、分析し、(大人のカも借りながら)自分たちで実行できる。	少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。		

6 単元目標

- 平行線や角の性質を理解することができる。多角形の角についての性質が見出せることを理解することができる。(知識・技能)

基本的な平面図形の性質を見出し、平行線や角の性質を基にしてそれらを確認説明することができる。(思考・判断・表現)

平行線や角の性質を言葉で表そうと粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度を身につける。(主体的に取り組む態度)

7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 平行線や角の性質を理解している。 ・ 多角形の角についての性質が見いだせることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確認説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平面図形の性質の良さを実感して粘り強く考え、平面図形の性質について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、平面図形の性質を利用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。

8 指導計画 (全13時間)

教科・領域の本質的な問い

- ・ 他人に図形の説明をするにはどうすれば伝わりやすい説明をするためにどんな工夫が良いだろうか。

過程	時間	学習内容	重点	記録	評価規準	資質・能力 (評価方法)
課題の設定	1	図形を分かりやすく伝えるためにはどんな工夫が良いか考える。 【本時】	態	○	グループワークや班活動を通して、図形を伝えるにはどんな言葉がよいかを見出している。	【主体性】(記述分析)
単元を貫く問い (探究課題の萌芽)						
同じ図形を相手に伝えるにはどんな言葉で伝えればよいだろうか。						
情報収集	2	多角形の角の和の求め方について理解する。	知		多角形は三角形に区切ることが理解できる。	【課題発見解決力】 (ワークシート)
	3	多角形の角の和の求め方について説明することができる。	思		多角形を三角形に分けて、内角の和を求めることができる。	【課題発見解決力】 (ワークシート)
	4・5	直線の交点からできる角度について調べる。	知		対頂角や同位角、錯覚の角度について理解している。	【コミュニケーション能力】(記述分析)

	6	三角形の角の性質を証明してみよう。	思		多角形の内角の和をもとに、外角の和について説明することができる。	【課題発見解決力】 (ワークシート)
	7	角の大きさを求める方法を考えよう。	知	○	補助線や対頂角、同位角、錯角を用いて、角度の大きさを求めることができる。	【課題発見解決力】 (ワークシート)
	8	図形の合同の性質と表し方を理解する。	知		合同な図形の表し方や性質を理解することができる。	【課題発見解決力】 (ワークシート)
	9	三角形の合同条件について理解する。	知		三角形の合同条件を理解する。	【コミュニケーション能力】(記述分析)
	10	三角形の合同条件から合同な三角形を見つけよう。	知		辺の長さや角度を調べて、合同な三角形を見つけることができる。	【課題発見解決力】 (ワークシート)
	11	三角形の合同条件を用いた証明を理解する。	思	○	三角形の合同条件の根拠を示し、証明することができる。	【コミュニケーション能力】(記述分析)
整理・分析	12	事柄を整理して図形の性質を理解する。	思		角度の性質や三角形の合同条件を理解し、用いることができる。	【コミュニケーション能力】(記述分析)
振り返り	13	証明の根拠となる事柄を振り返る	態	○	角度の性質や三角形の合同条件の事柄を振り返る。	【主体性】(記述分析)
単元を貫く問いの終結						
直線や角度の性質、三角形の合同条件を用いて、全員が理解している数学的用語を用いることで相手に伝わる。						

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○図形が組み合わさった図を他者に伝える活動を通してどんな工夫をすれば良いのか考える。

(2) 本時の評価規準

・グループワークや班活動を通して、図形を伝えるにはどんな言葉が他者に伝わりやすいのを見出している。

(3) 準備物

・ワークシート、ホワイトボード

(4) 学習の流れ (1時間目/全13時間)

過程	学習活動	指導上の留意事項 (○) 予想される生徒の反応 (・) 支援を要する生徒への手立て (◆)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
1 課題の把握 [10分]			
導入	スライドでクイズをする。 絵描き歌を映像なしで書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 学習課題 同じ図形を伝えるにはどんな言葉で伝えればよいだろうか </div> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ねらい 図形を言葉だけで伝達しよう </div>	○図形の用語の表を電子黒板に映す。 ・絵描き歌の言葉だけだと上手に書けない。 ・分かりにくい説明だから、どのような言葉なら伝わるのだろうか	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">導入の工夫</div> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">ICTの活用</div> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">単元を貫く問い</div>
2 課題の探究 [10分]			
展開前半	ペアになって図形伝達ゲームを行う。 プrintの図形を隣の生徒にどう伝えればよいかをワークシートに言葉にする。	○図形の用語の表を電子黒板に映す。 ○マス目を長さに換算して伝える。等 ◆机間巡視をして困っている生徒に声をかける。	
3 課題の解決 [15分]			
展開後半	相手の分かりやすかった言葉などを班活動でホワイトボードにまとめる (個人→班) 各班で発表する。 (班→全体)	・なぜこの言葉で伝わったのだろうか。 ◆なぜわかりやすかったのかの理由まで発表してもらおう。	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">ホワイトボードの活用</div> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">思考を促す学び合い</div>
4 次の探究に向けて。 [10分]			
展開	どのような説明をすればよいか、他の班の意見も取り入れながら考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 予測される生徒の考え A評価 長さをマス目で伝えているとよく分かった、角度や配置も伝えられるようになりたい。 B評価 形や大きさをどう伝えればよいかわからなかった。 </div>	・マス目の長さなど伝えてくれると分かりやすい。	〔観点〕 態度 ★主体性 (評価方法) 記述分析

5 課題解決に向けて振り返りをする。[5分]		
ま と め	○振り返りを書く。	
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> 生徒の振り返りの例 ・図形を言葉で伝えることが難しかった。位置とか長さとかどう伝えればよいのか知りたい。 ・ゲーム感覚で授業ができて楽しかった。言葉でどう伝えればよいのか勉強したい。 </div>	

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック

尺度 (評点・レベル)	記述語
A (理想的)	図形の長さや角度を自分の言葉で伝えようとしている。
B (合格)	図形の形を伝えようとしている。
C (乗り越えさせたい実態)	図形の形を伝えることができない。

(5) 板書計画

単元名 合同と平行

ねらい 図形を言葉だけで伝達しよう

学習課題 同じ図形を伝えるにはどんな言葉で伝えればよいだろうか

WB	WB	WB	WB
WB	WB	WB	WB

「 **器械運動** 」 **マット運動**
 ～ **日比中オリンピック体操競技の部** ～ **パワー・美しさを全身で表現！** ～

本単元で育成する資質・能力

(学校) 主体性, コミュニケーション能力

- 1 日時 令和4年10月5日(水) 12:55～13:45
- 2 学年 第2学年3組 (男子19名 女子18名 合計37名)
- 3 場所 体育館
- 4 単元について

○ 教材観

学習指導要領保健体育編 領域【B 器械運動】を基に設定されており、マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの「技」がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

本単元は、回転系と巧技系の技群から自己の能力に適した技を選択し、個々の技や組み合わせ技がよりよくできるように技能を高めるものであり、技の構造に着目して段階的・系統的に学習を進めていくことができる。

小学校では、前転や後転、側方倒立回転など基本的な技の習得をしている。中学校第1学年及び第2学年では、これらの学習を受けて、倒立前転や伸膝後転、側方倒立回転跳び1/4ひねり(ロンダート)など発展的な技がよりよくできることや自己に適した技で演技することが求められる。また、器械運動の学習に積極的に取り組み、よい演技を認めることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配るとともに、技の行い方や練習の仕方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができる教材である。

○ 生徒観

本学級の生徒は、仲間とともに協力し、明るく前向きに学習に取り組むことができる。保健体育の授業においても今年度より男女共修で授業を行っているが、どのクラスよりも男女分け隔てなく取り組むことができている。

本学級の生徒に実施したところ以下のようになった。

質問項目	肯定的評価
体育の授業が好きである。	96.9%
自分の課題がわかる。	62.3%
仲間と協力して授業に取り組むことができている。	96.9%
球技をすることは好きである。	84.4%
陸上競技をすることは好きである。	68.8%
武道(剣道)をすることは好きである。	64.1%
ダンスをすることは好きである。	69.3%
器械運動(マット運動)をすることは好きである。	53.1%

以上の結果から、体育の授業に積極的に取り組むことができているが、他の領域に比べ、マット運動の肯定的評価が低い値が見られた。また、「自分の課題がわかる」という項目についても低い値が見られる。「仲間と協力して授業に取り組むことができている」の項目においては高い値が見られた。1人では課題を発見・解決することが困難でも仲間と協力をすることで課題を発見・解決をさせ、技の習得

をさせ、マット運動が苦手な生徒も最後まで意欲的に授業を取り組ませたい。

○ 指導観

指導に当たっては、次の2点について工夫を行う。

① マット運動が嫌いな生徒への取り組み

技ができないことがマット運動を嫌いな原因として挙げられる。技を習得することができればマット運動を好きな生徒を増やすことができるのではないかと考えた。以上のことから次のような取り組みを行い、技の習得をさせたい。

マット運動の技を難易度別に4段階に分け生徒に提示し、ICTを用いて技の模範例と演技のポイントを確認し、どの技を行うかを自己決定させる。具体的には、19の技の選択肢から4つの技を選択し、発表の演技構成を個に応じて考えさせることで、最後まで意欲的に取り組ませたい。

② 自己の課題を認識させる取り組みについて

ICTを用いて模範例の映像と生徒自身が技を行っている姿をいつでも確認できるようにし、それらを客観的に比較することで、自分に合った技を選択できるようにする。また、ペア活動や5人程度のグループ活動で一人一人の演技に対してアドバイスしたり、補助したりして、それぞれの課題を発見し解決する教え合い、学び合うグループ活動を設定する。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

授業の展開の場面で(ミニホワイトボード等を使用して)	資質・能力	意欲・態度	知識・スキル		
		主体性 (自己を認識する力、 自分の人生を選択する力)	コミュニケーション能力 (表現する力)		
レベル1	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。	
レベル2	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために、質問ができる。	

	レベル3	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。
	レベル4	やりたいことを自ら見つけ、分析し、(大人の力も借りながら)自分たちで実行できる。	少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。		

6 単元目標

- 技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、自己に適した技で演技することができるようにする。
- 技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- 器械運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすることや、健康・安全を確保することができるようにする。

7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<p>マット運動には多くの技があり、これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせている。</p>	<p>提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、自他の課題やできばえを伝えている。</p>	<p>練習の補助をしたり仲間に助言したりして仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>健康・安全に留意している。</p>

8 指導計画（全8時間）

教科・領域の本質的な問い

- ・自分の体の限界を超え、人生をより豊かにしよう！

過程	時間	学習内容	重点	記録	評価規準	資質・能力 (評価方法)
課題の設定	1	マット運動の授業の流れをつかむことができる。	態		マット運動の特性や学習の進め方に関心を持ち，見通しを持って進んで取り組むことができる。	【主体性】
単元を貫く問い（探究課題の萌芽） 日比中オリンピック体操競技の部 ～パワー・美しさを全身で表現！～ 「美しいと感じる演技をするためにはどのようなことに気を付ける必要があるか」						
情報収集・整理・分析	2・3・4	技を習得し，実施することができる。 (3時間)【本時2/3】	知	○	技のポイントを理解し，押さえた練習をすることができる。	【コミュニケーション能力】(記述分析)
	5・6・7	自他の課題を発見し，自分の能力に合わせて，演技構成を考えることができる。	思		自己の能力に適した技を選び，課題を解決することができる。	【コミュニケーション能力】
まとめ・創造・表現・実行・振り返り	8	自分の考えた演技を披露する。	知	○	自分の能力に適した技を組み合わせて演技ができる。	【主体性】(記述分析)
単元を貫く問いの終結 自他の課題を発見するために，仲間と話し合い活動をする中で技のポイントを理解したり，自分の適性に応じた技を選択したりすることができた。 また，よりよく技を演技するためには，ただ単に技を行うのではなく，技を行う演技構成も大切となる。						

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・自分の演技と模範演技を比較する活動を通して，難易度3（倒立前転，伸膝後転，ロンダート，首跳ね起き，Y字バランス，倒立ブリッジ）のいずれかの技を習得することができる。

(2) 本時の評価規準

- ・技のポイントを理解し、押さえた練習をすることができる。 (知識・技能)

(3) 準備物

- ・電子黒板 ・タブレット端末 ・プロジェクター ・スクリーン ・マット ・ワークシート

(4) 学習の流れ (3時間目/全8時間)

過程	学習活動	指導上の留意事項 (○) 予想される生徒の反応 (・) 支援を要する生徒への手立て (◆)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
1 課題の把握 [10分]			
導入	<ul style="list-style-type: none">・準備運動・既習事項の確認 ・学習課題の確認	<p>○準備運動を兼ねて、前時で行った技の練習を行う。</p> <p>◆できない生徒に技のポイントをアドバイスする。</p> <p>○本時に行う技のイメージを持たせるため、模範演技の技を視聴する。</p> <p>【難易度3の技の一覧】 倒立前転、伸膝後転、ロンダート、首跳ね起き、Y字バランス、倒立ブリッジ</p> <ul style="list-style-type: none">・小学校では習わなかった技が多いな。・難しそうな技が多いな。	<p>ICTの活用</p> <p>ICTの活用</p> <p>導入の工夫</p>
学習課題 日比中オリンピック体操競技の部 ～パワー・美しさを全身で表現！～			単元を 貫く問い
ねらい 技のポイントを理解し、技を習得することができる。			
2 課題の探究 [20分]			
展開	<ul style="list-style-type: none">・ペアで技の課題を行う。・ペアで良い点、改善点を1つ以上挙げさせワークシートに記入する。	<p>○ワークシートを用いてペアでアドバイスをし合いながら技を練習させる。</p> <p>【アドバイスの例】</p> <ul style="list-style-type: none">・倒立前転…膝が曲がっているよ。足がそろっていないよ。目線は手と手の間だよ。・伸膝後転…膝が曲がっているよ。両手の押す力が弱くてタイミングが遅いよ。・ロンダート…足が上がって	<p>小グループでの活用</p> <p>思考を深める 学び合い</p> <p>ICTの活用</p> <p>ペア活動、模範演技との比較を通して技を習得することができる。</p> <p>〔知識・技能〕 ★コミュニケーション能力【ワークシート】</p>

		<p>なくて，倒立の形になっていないよ。両足をもっと手の近くに着地した方がいいよ。</p> <p style="text-align: right;">など</p> <p>◆模範演技の映像を常に流しておく。</p> <p>◆タブレット端末を利用し，自己の動きの確認をする。</p>	
3 課題の探究 [5分]			
展 開	<p>・本時に行った技の中から選択し，技を行う。</p> <p>・次時に行う技の確認をする。</p>	<p>○技を行った後，ペアで意見交換をする。</p> <p>◆技のポイントをアドバイスする。</p> <p>【アドバイスの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首跳ね起き…両手で押すタイミングが遅いよ。もっと背中を反らしてみたらどうかな。 ・Y字バランス…体幹を締めるイメージを持つといいと思う。 ・倒立ブリッジ…なるべく両足を両手に近づけるように着くといいと思うよ。勢いを少し落として両足をマットにつけた方がいいよ。 	
4 課題解決について発表をする。[15分]			
ま と め	<p>○片付け</p> <p>○振り返りを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>生徒の振り返りの例</p> <p>授業の始めは上手く技が行えなかったが，ペア活動を通して自分では気づきにくい課題をアドバイスしてもらえたので修正しやすかった。また，模範演技と友達の演技を比較することで，つまづきやすいポイントがわかり，アドバイスをしやすかった。</p> </div>		

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	学習を振り返って，模範演技との比較や，ペア活動での取り組みを通して技を習得しており，学習前後における変容を具体的に示している。
B（合格）	学習を振り返って，ペア活動での取り組みを通して技を習得しようと

	している。
C (乗り越えさせたい実態)	模範演技やペア活動での取り組みについて記述されていない。

(5) 板書計画

単元名 器械運動「マット運動」

学習課題 オリンピック選手のあの技に挑戦！！

ねらい 技のポイントを理解し、技を習得することができる。

～本時に行う技～

倒立前転
伸膝後転
ロンダート
首跳ね起き
Y字バランス
倒立ブリッジ

～本時の流れ～

- ① 前回の技の練習
- ② 今回の技のポイントチェック
- ③ ペア練習
- ④ 自信のある1技
- ⑤ まとめ

「 故郷 」

～45分でわかる 魯迅の「故郷」～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 思考力 (学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和4年10月5日(水) 12:55～13:45
- 2 学年 第3学年1組 (男子14名 女子17名 合計31名)
- 3 場所 本館3F 3年1組教室
- 4 単元について

○ 教材観

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年)第3学年「C. 読むこと」の指導事項「イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。」「エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。」「言語文化(3)」「オ 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解すること。」を受けて指導する。

「故郷」は、二十世紀前半の中国を舞台とした作品である。母国の人々の精神を改革するため文学が有用だと考えた魯迅が執筆した作品である。時代も国も違う本作品は、現代を生きる中学生は理解しにくい部分もあるだろう。しかし、登場人物の心情や人物の描写を丁寧に読み取っていくことにより作品への理解を深め、社会や人間の生き方について自分の意見をもたせることをねらいとして設定した。

○ 生徒観

本学級の生徒に、読書や授業で行う物語の読解についてアンケートを行った。

読書(小説を読む)は好きか。	好き 22名 ・ 嫌い 7名
国語の授業で行う物語の読解は得意か。	得意 4名 ・ 苦手 25名

読書が好きだと回答している生徒は全体の約76%もいたのに対し、読解が得意だと回答した生徒は14%にも満たない。読書が好きだと回答した生徒の理由は、「場面や情景などを自分の頭の中で自由に想像できるのが楽しいから。」「実際できないようなことも人物になりきって想像できるから。」など、読書を通じて自分では経験できないようなことを追体験することにワクワクしているようだ。しかし、授業での読解となると、「自分が読みたい分野でないので興味がもてない。」「面白くない。」という理由から苦手と答えている。イメージを広げる前から拒否反応が出ているように感じられる。

○ 指導観

指導に当たっては、二つの大きな柱を設定している。

一つ目は、脚本化である。読みを深めるためである。「故郷」では、時の流れによって変化した人や人間関係を読み取らせていくことが重要である。脚本化するという明確な目標をもつことにより、台詞のみならず地の文章、行間をじっくりと読むことが期待される。登場人物の人物像、心情、作者の意図をしっかりと読み取らせたい。また、脚本を交流することによって、互いの学びを深めていきたい。

二つ目は、「ブック イントロダクション」、つまり、作品の紹介である。理解を深めるためである。人に解説するためには、作品を完全に理解していなければならない。人に教えると、「理解したつもり」となっていた事柄を、もう一度頭の中で整理して、人に伝わるように説明することができるのでより理解が深まる。

アメリカ国立訓練研究所が発表した学習定着率の高低をあらわした図である「ラーニングピラミッド」によると、学習定着率が一番高い手法は、「他の人に教える」ということである（90%）。そのあと「自ら体験する」（75%）、グループ討論（50%）と続く。今回の授業では、この上位三つのアクティブラーニングを組み込み、効果を狙っていきたい。

ワークショップ型の授業を展開することにより、スムーズに小説の中に入り込んでいかれるようにしていきたい。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本題材においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）	表現力・コミュニケーション能力			主体性
レベル1		（話す speak） ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	（聞く） ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		（話す tell） ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	（聴く） ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		（話す talk） ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	（訊く） ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

6 単元目標

第3学年 2 内容〔思考力・判断力・表現力〕より

- 自分の考えを明確にし、相手に伝わるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫する。
【話す イ】
- 表現の仕方を考え、自分が読み取ったことや考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する。
【書く ウ】
- 文章に表れているものの見方や考え方について考える。
【読む イ】
- 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会について、自分の意見をもつこと。
【読む エ】

7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会について、自分の意見をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に場の状況に応じて言葉を選び、学習課題に沿って伝えようとしている。 ・積極的に学習の見通しをもって脚本にまとめようとしている。

8 指導計画（全10時間）

教科・領域の本質的な問い

- ・どんなことが文学的な文章を読むときに大切な

過程	時間	学習内容	重点	記録	評価規準	資質・能力 (評価方法)
課題の設定	1	「故郷」のCDを聞き、 全体の内容をつかむ。 (1時間)	態	○	全体の内容をつかみ、作者について調べ、まとめようとしている。	【主体性】(観察・ワークシート)
単元を貫く問い(探究課題の萌芽)						
『ブック イントロダクション』～故郷を知らない人にこの作品を解説するにはどうしたらよいか～						
整理・分析	2	作品の時代背景や社会情勢を踏まえて、心情や考えを読み取る。 (1時間)	思	○	時代背景や社会情勢について理解した上で、登場人物の心情や考えを読み取るようとしている。	【主体性】(観察・ワークシート) 【思考力】 (ワークシート)
	3	「紺碧の空」「金色の丸い月」が象徴するものをとらえる。 (1時間)	思	○	描画ツールで絵を描きながら、「紺碧の空」「金色の丸い月」が象徴するものをとらえようとしている。	【主体性】(観察・クロムブック・ワークシート) 【思考力】 (ワークシート)

まとめ・創造・表現	4	故郷の様子や登場人物の変化をとらえる。 (3時間) 【本時 3/3】	思	○	登場人物の心情を理解し、表現の工夫をしながら脚本を作ろうとしている。	【表現力】【思考力】(ワークシート)
	5	「私」が抱く「希望」や望む社会について考えよう。 (1時間)	思	○	私が考えている「希望」や望む社会の在り方などについて捉えようとしている。	【思考力】 (ワークシート)
	6	「故郷」を読んだことがない人に、この作品を解説しよう。 (3時間)	思	○	話の構成を考え、他者に伝わるように自己の学びを発信するだけでなく、他者の発表を聞き、自分の考えを深めようとしている。	【表現力】【コミュニケーション力】 (観察)

単元を貫く問いの終結

登場人物の思いを知り作品の理解を深めるためには、追体験をすることが有用であることを知る。

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○文章に表れているものの見方や考え方について考える。

(2) 本時の評価規準

- ・他者に伝わるように自己の学びを発信するだけでなく、他者の発表を聞き、自分の考えを深めようとしている。(思・判・表)

(3) 準備物

- ・教科書 ワークシート chromebook

(4) 学習の流れ (6時間目/全10時間)

過程	学習活動	指導上の留意事項 (○) 予想される生徒の反応 (・) 支援を要する生徒への手立て (◆)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
1 課題の把握 [10分]			
導入	前時に作成した脚本を見直し、演技の練習をする。	○各班を回り、アドバイスを与える。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習課題 登場人物の思いを追体験するために、心情を考えながら演じよう。 </div>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ねらい 「私」とルントウの間にある「悲しむべき厚い壁」について考えよう。 </div>			

2 課題の探究 [20分]			
展開 前半	少人数班で、「私」とルントウとの再会シーンの脚本の発表をする。(演じる)	○自分が演じたり,他の班の発表を見たりしながら,「悲しむべき厚い壁」について考えるように伝える。 ・「A班は,『私』がルントウを一目見たときから『壁』を感じているように演じているけど,B班は,『私』はルントウに『旦那様』と言われて初めて『壁』を意識し始めたね。」	
3 課題の解決 [10分]			
展開 後半	各班で次の二点を話し合い,ホワイトボードに記入し,発表する。 ・二人の間に生まれた「悲しむべき厚い壁」とは何か。 ・「私」は,なぜこのような壁ができたと感じたのか。	○壁を感じるようになった理由については,「私」がきっかけ,ルントウがきっかけの二通りの解釈があることを伝える。	[思・判・表] 話し合い 発表
5 課題解決について発表をする。[10分]			
まとめ	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>予測される生徒の考え</p> <p>A評価 「悲しむべき厚い壁」とは「身分や境遇の違い」で,大人になったルントウが社会的関係において自分が下位であることを意識したことによって生まれた。(再会したときの「私」の反応をルントウが見て,「私」の中に壁を感じたことによって生まれた。)</p> <p>B評価 「心の壁」(「壁」が指すものを捉えることができていない。)</p> </div>		
	○振り返りを書く。		
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>生徒の振り返りの例</p> <p>・各班の演技を見て,「悲しむべき厚い壁」がいつ生まれたのかの解釈の違いがわかって興味深かった。</p> </div>		

小グループの活用

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック (パフォーマンス評価)

尺度 (評点・レベル)	記述語
A (理想的)	演じたり,他の班の発表を見たりして,「悲しむべき厚い壁」とは何か,いつ生まれたのか自分の考えをもつことができる。
B (合格)	「悲しむべき厚い壁」を理解し,いつ生まれたのかは解説を聞くことによって理解できる。
C (乗り越えさせたい実態)	「悲しむべき厚い壁」の内容を理解できる。

「運動とエネルギー」 仕事とエネルギー ～ はやぶさ2のターゲットマーカーが弾まないのは何故か ～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 見方(量的・規則的) (学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和4年10月5日(水) 12:55～13:45
- 2 学年 第3学年2組 (男子14名 女子16名 合計30名)
- 3 場所 本館2F 第一理科室
- 4 単元について

○ 教材観

本単元は、新学習指導要領第1分野の内容(5)運動とエネルギー(ウ)力学的エネルギーに位置付けられており、理科の見方・考え方を働かせて、仕事とエネルギー、力学的エネルギーに関する現象についての観察、実験を行い、日常生活や社会と関連付けながら、仕事とエネルギーの関係、位置エネルギーと運動エネルギーの互換性、力学的エネルギーの保存性を見いだして理解させるとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けさせ、思考力、判断力、表現力等を育成することを主なねらいとしている。

本単元では、仕事とエネルギー、力学的エネルギーに関する現象について科学的に探究する活動を通して、規則性を見いだしたり課題を解決したりする力を養うことができる。

○ 生徒観

本学級の生徒は、理科学習に対して前向きに取り組んでいる。9月に理科の授業に関するアンケートを行った。下の表はその結果である。「エネルギーの分野(光、音、力)に興味がある」という質問に対する肯定的な回答は36%と、他の分野よりも肯定的な回答がすくないが、「宇宙に興味がある」という質問に対する肯定的な回答は80%と関心が高い。また、理科の授業では、結果から分かったことを考察し、自分の意見をまとめることはできるが、全体に向けて発表をする場面では消極的になる生徒が多い。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	まったくあてはまらない
理科の授業は好きである。	20%	44%	36%	0%
理科の授業は分かりやすい。	32%	60%	8%	0%
生物の分野(生物、体のつくり)に興味がある。	28%	36%	24%	12%
化学の分野(物質、化学変化)に興味がある。	16%	24%	36%	24%
エネルギーの分野(光、音、力)に興味がある。	12%	24%	36%	28%
地学の分野(大地、天気、宇宙)に興味がある。	16%	52%	20%	12%
宇宙に興味がある。	48%	32%	16%	4%
授業では、自分の考えを積極的に伝えています。	12%	24%	56%	8%
授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	20%	36%	40%	4%
授業では、結果から分かったことを考察して文章にまとめたりしています。	40%	32%	28%	0%
学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」、「学習の方法でうまくいったことや、失敗したことの理由」、「疑問に思ったこと」を考えています。	24%	40%	32%	4%

○ 指導観

指導に当たっては、エネルギーは抽象的な概念であり、日常用語として使われることが多いにも関わらず、生徒にとっては認識しにくいものである。従って、身近なものを使って観察・実験を行うことで、さまざまな場面にエネルギーが関係していることに気づき、エネルギーを多面的にとらえさせたい。力学的エネルギーに関する実験では、条件設定や結果の分析から、規則性を見いだしていき、数量的にグラフ化するなど分析する力や規則性を読み取る力を養いたい。そして、仕事とエネルギーの関係を明確に理解し、エネルギーの概念をおさえ、力学的エネルギーを量的に扱い、エネルギーが相互に変換されることなど、日常生活や社会と関連づけ、科学的な見方、考え方を養わせていく。

また、エネルギーの分野が苦手な生徒の中に、宇宙のことには関心がある場合がある。本単元では、単元の導入時に小惑星探査機「はやぶさ2」について紹介し生徒の関心を高める。また、着陸時の目印になるターゲットマーカーについて紹介し、ターゲットマーカーが小惑星に衝突しても弾まない理由を、単元を通して探究し、解決していく流れの授業を行い、単元終了時に、はやぶさ2のターゲットマーカーが弾まない理由を考えさせ、エネルギーの変換についての既習事項を活用し課題を解決させたい。自分の意見を積極的に発言できる生徒が少ないが、関心のある内容であれば発言しやすいと考えられるため、いろいろな意見を発表させたい。また、最新の科学技術にも中学校理科の内容が活用されていることを生徒に実感させたい。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

	資質・能力	意欲・態度	知識・スキル		
		主体性 (自己を認識する力、 自分の人生を選択する力)	コミュニケーション能力 (表現する力)		
授業の展開の場面で(ミニホワイトボード等を使用して)	レベル1	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。
	レベル2	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために、質問ができる。
	レベル3	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。
	レベル4	やりたいことを自ら見つけ、分析し、(大人のカも借りながら)自分たちで実行できる。	少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。		

6 単元目標

○ 物体の運動やエネルギーに関する観察、実験を通して、物体の運動の規則性やエネルギーの基礎について理解させるとともに、日常生活や社会と関連付けて運動とエネルギーの見方や考え方を養う。

7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・運動の規則性，力学的エネルギーに関する事物・現象についての観察，実験の基本操作を習得するとともに，結果の記録や整理など，事象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。 ・運動の規則性，力学的エネルギーに関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の規則性，力学的エネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし，目的意識をもって観察，実験などを行い，事象や結果を分析して解釈し，自らの考えを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の規則性，力学的エネルギーに関する事物・現象に進んでかかわり，それらを科学的に探究するとともに，事象を日常生活とのかかわりでみようと

8 指導計画（全11時間）

教科・領域の本質的な問い

- ・エネルギーは世の中をどのように変えてきたのだろうか。

過程	時間	学習内容	重点	記録	評価規準	資質・能力 (評価方法)
課題の設定	1	弾まない物体の製作 【本時】	態	○	ターゲットマーカが弾まない現象について，既習事項を用いて説明しようとしている。	【主体性】（記述分析）
単元を貫く問い（探究課題の萌芽）						
はやぶさ2のターゲットマーカはなぜ弾まないのだろうか。						
情報収集	2	仕事	知	○	理科でいう仕事について理解する。	
	3	道具を使った場合の仕事	知		動滑車や斜面を使う場合と使われていない場合について，物体を持ち上げたときの仕事の量を調べることができる。	【主体性】（記述分析）
	4	仕事の原理と仕事率	知		仕事の原理と仕事率について理解する。	
整理・分析	5	エネルギーとは何か 位置エネルギー	思	○	位置エネルギーの大きさと高さや質量の関係を考察することができる。	【コミュニケーション能力】（記述分析）

	6	運動エネルギー	思		運動エネルギーの大きさと速さや質量の関係を考察することができる。	【コミュニケーション能力】（記述分析）
	7	力学的エネルギー	知		力学的エネルギー保存の法則について理解する。	
	8	エネルギーの種類	知		いろいろな種類のエネルギーがあることを理解する。	
まとめ・創造・表現	9	エネルギーの変換と保存	思		エネルギーの変換効率について考えることができる。	【主体性】（記述分析）
	10	熱の移動	知		熱の伝わり方について理解する。	
実行・振り返り	11	ターゲットマーカが弾まない理由	思	○	ターゲットマーカが弾まない現象について、既習事項を用いて考えることができる。	【コミュニケーション能力】（記述分析）
<p>単元を貫く問いの終結</p> <p>衝突した際、ターゲットマーカがもっていた運動エネルギーが、内部のプラスチック片の運動エネルギー、プラスチック片どうしが衝突して摩擦することで熱エネルギーや音エネルギーに変換され、ターゲットマーカが跳ね返るエネルギーが減少したため、跳ね返らない。</p>						

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○弾まない物体の製作に興味・関心をもち、意欲的に取り組み、弾まない理由を生徒の経験や既習事項を用いて説明しようとしている。

(2) 本時の評価規準

・ターゲットマーカが弾まない現象について、既習事項を用いて説明しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】（記述分析）


(3) 準備物

- ・ガチャガチャのカプセル
- ・小豆（小球）
- ・ホワイトボード
- ・作用・反作用の法則に関する動画（宇宙）
- ・はやぶさ2に関する動画

(4) 学習の流れ (1 時間目 / 全 1 1 時間)

過程	学習活動	指導上の留意事項 (○) 予想される生徒の反応 (・) 支援を要する生徒への手立て (◆)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
1 課題の把握 [10分]			
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・作用反作用の動画 (宇宙) を見る。 ・はやぶさ 2 の紹介を行い, 動画を見る。 ・本時の課題を知る。 	<p>○既習事項を確認させる。 作用反作用の法則の確認をする。</p> <p>○はやぶさ 2 に関する動画を視聴し, ターゲットマーカの特徴 (目標地点に正確に着地するためのもので, お手玉を参考にした, 弾まない工夫がされている) を説明する。</p> <p>○宇宙の話をして, 興味付けを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇宙すごい。 ・なんでターゲットマーカは弾まないんだろう。 	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">ICTの活用</div> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">導入の工夫</div> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">導入の工夫</div>
<p>学習課題 ターゲットマーカはなぜ弾まないか, 科学的に説明しよう</p>			<div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">単元を貫く問い</div>
2 課題の探究 [15分]			
展開 前半	<ul style="list-style-type: none"> ・弾まない物体の製作をする。 ・小豆の量を調節し跳ね返るの高さを測定し, より弾まない物体をつくる。 ・結果を確認する。 	<p>○ターゲットマーカのモデルとして, ガチャガチャのカプセルを使用し, 何も入っていない場合は, どれだけ弾むかを演示する。</p> <p>○4 人班で活動させ, 用意した小豆 (小球) を使ってより弾まないカプセルを作らせる。</p> <p>○落とす条件を統一させる。(机の上に高さ 30 cm から自由落下させる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小豆が少なすぎても多すぎても弾んでしまう。何度も試して弾まないものをつくろう。 <p>◆とにかく条件を変えて実験回数を増やすようにする。</p> <p>○ホワイトボードに跳ね返った高さを記入させ, 良い班に前で実演させる。</p>	



3 課題の解決 [15分]			
展開後半	<ul style="list-style-type: none"> ターゲットマーカーが弾まない理由を個人で考える。 4人班で意見をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の経験や既習内容をふまえて、自由に書かせる、正解は求めず、弾まない理由を個人で考えさせるようにする。 ◆反作用の力がどうなったかを考えさせる。 	
4 課題解決について発表をする。[10分]			
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ターゲットマーカーが弾まない理由を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> カプセルにはたらく反作用の力が、小豆が動く力になった。 小豆が動くことで力が分散した。 	ターゲットマーカーが弾まない現象について、既習事項を用いて説明しようとしている。 ★主体的に学習に取り組む態度 【記述内容】
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>予測される生徒の考え</p> <p>A評価 カプセルにはたらく反作用の力が、小豆が動く力になった。小豆が動くことで力が分散したなど。</p> <p>B評価 わからない。力がなくなる。</p> </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> 本単元の学習内容の説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○エネルギーや仕事など、今後学習する内容について簡単に説明する。 	
	○振り返りを書く。		
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>生徒の振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none"> 作用・反作用など力を用いて説明がしづらかった。エネルギーについてもっと学習したい。 </div>			

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	学習を振り返って、対話を通して、試行錯誤しながら課題を解決しており、事象の疑問点などを挙げつつ、自分の考えを記述している。
B（合格）	学習を振り返って、実験結果や対話を通して、課題を解決しようとしている。
C（乗り越えさせたい実態）	学習を振り返って、課題を解決しようとしていない。

「
音楽コンクール・赤船祭に向けて
～ クラス一体となるパワーワード ～」

本題材で育成する資質・能力

(学校) 主体性, コミュニケーション能力

- 1 日時 令和4年10月5日(水) 12:55～13:45
- 2 学年 第3学年3組 (男子14名 女子16名 合計30名)
- 3 場所 本館3F 3年3組教室
- 4 題材について

○ 題材観

本題材は、学習指導要領特別活動〔学級活動〕内容(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」のウ「学校における多様な集団の生活の向上」にかかわるものである。

学校行事を通じて向上したリーダーとしての自覚や集団活動を、毎日の学校生活に置き換えて生活するには、クラスで課題をさぐり目標を見いだす必要がある。そのため、生徒の興味関心が高い学校行事を通じて、互いの良さを認め合いながら、より具体的に目標を設定し、次のステージへの成長、ゴールに向けての自分たちがどうありたいかを考えていける題材である。

○ 生徒観

本学級の生徒は、非常に落ち着いて学校生活に取り組んでいる。行事ごとにもまじめに取り組み、仲間と協力しながら前向きに取り組んでいる。しかし、自分から行動することに苦手意識があり、失敗を恐れて前に出にくい場面が見受けられる。

話し合い活動は積極的にに行えることから、「こうなりたい」という気持ちや具体的な行動などを全体で考えることはできるが、実際の行動につながっていないと思われる。

赤船祭や今後の学校生活まで広い視点でどのようなことが必要か考え、学級での合意形成を図りながら、実践する方法を設定、取組、検証、改善していきたい。

○ 指導観

指導に当たっては、学校全体で行ってきた合意形成能力を重視した「話し合い」活動を行う。「話し合い」活動を通じて、3年生の学年としての長所、短所に気づき、その上で、生徒一人一人に、自己の個性を見つめさせる。生徒一人一人が、これからチャレンジする受験、そして中学校生活の最後を飾る卒業式に向け、どのように自己の課題に取り組んでいくか、考えを深めさせる。話し合いを通し、相手の意見を聞いて、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えていきたい。

このように、クラスでの実態把握、目標設定、取組、検証、改善というマネジメントサイクルを回して学級づくりを進めていき、自分の考えを積極的に伝え合う話し合い活動を通して合意形成や意思決定を行うことのできる生徒の育成を図りたい。生徒の思いが生きるよう議長団が話し合いの内容を考え、提案していく生徒主体で行う。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本題材においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

	資質・能力	意欲・態度	知識・スキル		
		主体性 (自己を認識する力、 自分の人生を選択する力)	コミュニケーション能力 (表現する力)		
授業の展開の場面で(ミニホワイトボード等を使用して)	レベル1	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。
	レベル2	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために、質問ができる。
	レベル3	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。
	レベル4	やりたいことを自ら見つけ、分析し、(大人のカも借りながら)自分たちで実行できる。	少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。		

6 単元目標

- 生徒会など学級の枠を超えた多様な集団における活動や学校行事を通して学校生活の向上を図るため、学級としての提案や取組を話し合うことができる。

7 評価規準

知識及び技能 (何をしているか, 何ができるか)	思考力, 判断力, 表現力等 (知っていること, できることをどう使うか)	学びに向かう力, 人間性等 (どのように社会・世界と関わり, よりよい人生を送るか)
学級生活の向上や諸問題の解決に関心をもち, 行事や進路実現へ向けた活動に自主的, 自立的に取り組もうとしている。	学級の一員として自己の役割と責任をもち, 諸問題の解決に向けて多様な意見を生かし合い, その方法を考え, 判断し, 互いに信頼し合って実践している。	行事を成功させる意義やそれに向けて学級で取り組むことの意義, 進路実現等の諸問題の解決方法について理解している。

8 指導計画

教科・領域の本質的な問い

- ・良い卒業式を迎えるためには何が大切か。

過程	活動の場	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
事前指導	議長団	・どのような問いなら自分たちの思いを込めて考えられるか。	・議長団の思いやクラスの雰囲気を考え内容を検討する。	・話し合い活動が深まるよう自主的, 自立的に準備を進めようとしている。(知・技)
課題の設定	話し合い活動 (学級全員)	・どのような音楽コンクールや赤船祭にしていきたいか。	・行事だけでなく, 広い視点で考えるようにする。	・話し合い活動が深まるよう自主的, 自立的に準備を進めようとしている。(知・技) 【観察・ワークシート】
目標設定	話し合い活動 (学級全員) 【本時】	・「音楽コンクール, 赤船祭のパワーワードを考えよう」という議題のもと, 2学期の活動で自分達がどう行動していくかを考える。	・日比崎中学校のこれまでの先輩達から受け継いだものや, 自分達の良さ(新しい伝統), 1・2年生にも伝えたいことを意識させるようにする。	・学級生活の向上や諸問題の解決に関心をもち, 行事へ向けた活動に自主的, 自立的に取り組もうとしている。(知・技) 【観察・ジャムボード】
事後指導	音楽コンクール・赤船祭 準備期間	・決まったパワーワードを活用し, 本番に向けて気持ちを作る。	・自ら意識できるような声かけを行う。	・学級の一員として自己の役割と責任をもつ。
実践	赤船祭 (学級全員)	・音楽コンクール ・赤船祭本番	・3年生として, 後輩から憧れられるような姿を見せることを意識させるようにする。	・学級の一員として自己の役割と責任をもち, 諸問題の解決に向けて多様な意見を生かし合い, その方法を考え, 判断し, 互いに信頼し合って実践している。 (思・判・表) 【観察】

振り返り	話し合い活動 (学級全員)	・行事を通して得たもの、課題について考える。 ・音楽コンクール・赤船祭を終えて、実際にやってみてどうだったのか、自分達の成長を確認する。	・生徒の活躍について、具体例を示して賞賛する。 ・成果と課題を具体的に記入するよう助言する。	行事を成功させる意義やそれに向けて学級で取り組むことの意義、進路実現等の諸問題の解決方法について理解している。 (学び・人間性) 【観察・ジャムボード】
今後に向けて	話し合い活動 (学級全員)	・身についた力は今後どのようなところになるか・使っていきたいかを考える。	・長い先を見た広い視点で考えるようにする。	行事を成功させる意義やそれに向けて学級で取り組むことの意義、進路実現等の諸問題の解決方法について理解している。 (学び・人間性) 【観察・ジャムボード】

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○議題「音楽コンクール、赤船祭のパワーワードを考えよう」

(2) 本時の評価規準

- ・学級生活の向上や諸問題の解決に関心を持ち、音楽コンクール・赤船祭へ向けた活動に自主的、自立的に取り組もうとしている。

(3) 準備物

- ・ワークシート、電子黒板、ホワイトボード

(4) 学習の流れ

過程	学習活動	指導上の留意事項 (○) 予想される生徒の反応 (・) 支援を要する生徒への手立て (◆)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
	1 課題の把握 [5分]		
活動の導入	1. 始めの言葉 (副議長) 2. 議題の発表, 提案理由 (議長)	○事前にアンケートをとっておく。	導入の工夫
	単元を貫く問い：どのような行事ならやって良かったと思えるか。 議題：音楽コンクール、赤船祭のパワーワードを考えよう。		単元を貫く問い
	提案理由：この2つの行事は卒業式を抜くと、私たちにとって最後の行事になります。 1・2年生に伝えたい伝統や気持ちなどをよく考え、私たち3年生にとって最高の行事にするためにクラスでのパワーワードを考えていきましょう。		
	3. 先生から		

2 課題の探究 [20分]			
活動の展開	<p>4. 考えの確認 (アンケートの確認) アンケート内容: どのような音楽コンクール・赤船祭にしたいか</p> <p>5. 出し合う ・班でホワイトボードに書き込みながら少人数班で意見を出し合いながら整理する。</p>	<p>○電子黒板に一覧を出し、クラスで随時確認できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悔いの残らない最高の思い出にしたい。 ・全員が主役でみんなが一つになれる。 ・涙と笑顔が大切。 <p>○アンケートを元に4のために何を頑張るのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いを大切に全力で練習する。 ・全員が主役になれるよう協力する。 	<p>ICTの活用</p> <p>ホワイトボードの活用</p>
	<p>6. わかり合う ・ホワイトボードに書いたことを他の班に説明する。</p> <p>7. 比べ合う ・クラスで出た意見を深める。 (疑問に思ったことや異なる意見に対して質問など)</p>		<p>ホワイトボードの活用</p>
5 課題解決についてまとめ。 [25分]			
まとめ	<p>8. まとめ合う</p> <ol style="list-style-type: none"> ①個人の考えを整理 ②班の考えを整理 ③クラスで出た意見を深める ④クラスの意見を聞いてパワーワードを決める。 	<p>○今までの考えや思いを含め、3-3にふさわしいパワーワードを考える。</p>	<p>・学級生活の向上や諸問題の解決に関心を持ち、行事へ向けた活動に自主的、自立的に取り組もうとしている。</p> <p>(知・技) 【観察・ワークシート】</p>
	<p>9. 自己評価, 感想の記入</p> <p>10. 先生の話</p> <p>11. 終わりの言葉 (議長)</p>		